

主な見学予定施設の概要

1 県内施設

(1) 日本原燃株式会社（六ヶ所村）

原子力発電所で使い終わった燃料からウランなどを回収して再利用する「原子燃料サイクル事業」の確立を目指す国内唯一の企業です。中核となる再処理工場の完成に向けて準備が進められており、日本のエネルギーの安定供給とリサイクルの一翼を担っています。

(2) リサイクル燃料貯蔵株式会社（むつ市）

原子力発電所で使い終わった燃料を再処理するまでの間、安全に保管・管理する中間貯蔵事業を行っており、リサイクル燃料備蓄センターでは、発電所から搬入された使用済燃料を専用の容器（キャスク）に入れて管理しています。

(3) 東通原子力発電所（東通村）

東北電力㈱が2基、東京電力ホールディングス㈱が2基、合計4基を建設する計画となっています。このうち東北電力の1号機は2005年12月に営業運転を開始しましたが、東日本大震災後は運転を停止し、現在は新規規制基準への適合に向けた審査や工事が進められています。

2 県外施設

(1) 国立研究開発法人 日本原子力研究開発機構

原子力に関する総合的な研究開発機関として平成17年10月に発足し、「カーボンニュートラルな社会」と「低資源・高効率な社会」の実現を目指して、さまざまな研究開発に取り組んでいるほか、福島第一原子力発電所の廃止措置に向けた研究開発なども行っています。

見学予定施設：大洗原子力工学研究所（茨城県大洗町）

次世代革新炉と呼ばれる未来の原子炉を作るための技術開発を行っており、国際的にも次世代革新炉研究の中核拠点として知られています。高温ガス炉HTTR（高温工学試験研究炉）や高速実験炉「常陽」などがあります。

(2) 日本原子力発電株式会社

昭和32年に日本で唯一の原子力発電専門の会社として設立され、昭和41年、日本初の商業用原子力発電所として東海発電所の営業運転を開始、その後、商業用軽水炉で日本初の敦賀発電所1号機、日本初の大型原子力発電所となる東海第二発電所の営業運転を開始した、原子力発電のパイオニア企業です。なお、むつ市のリサイクル燃料貯蔵㈱は、日本原子力発電㈱と、東京電力HD㈱の共同出資会社です。

見学予定施設：東海第二発電所（茨城県東海村）

日本初の大型原子力発電所として1978年に運転を開始し、現在は東日本大震災による地震・津波被害や、福島第一原発事故を踏まえた安全対策工事が行われています。

発電所で使い終えた使用済燃料を再処理するまでの間、発電所内で安全に貯蔵管理するための乾式キャスク貯蔵施設があります。なお、むつ市のリサイクル燃料備蓄センターも同様に、乾式キャスクを貯蔵するための施設です。

なお、もう一方の東海発電所は平成 10 年 3 月に営業運転を停止し、日本の商業用原子力発電所では初めての廃止措置工事を行っています。

(3) 三菱原子燃料株式会社

原子力発電所で使用される原子燃料を製造しており、気体状の六フッ化ウランを燃料加工のために粉末状の二酸化ウランに変換する「再転換」と、この再転換工程を経て円柱形状のペレットの加工、燃料棒、燃料集合体を製造する「成形加工」を行っています。

見学予定施設：原子燃料製造工場(茨城県東海村)

日本で唯一の再転換工場で、製造しているのは PWR 型原子力発電所（加圧水型軽水炉）用の燃料です。昭和 46 年の設立後、これまでの製造実績は累計 20,000 体以上となっています。

(4) 日立 GE ベルノバニュークリアエナジー株式会社

原子力専門メーカーとして、発電用軽水型原子炉施設、高速炉施設、原子燃料サイクル関連施設およびその他関連製品の設計、製造などを行っているほか、福島第一原子力発電所の廃炉に関わる技術開発など、幅広い取組を進めています。

見学予定施設：日立オリジンパーク、臨海工場(茨城県日立市)

日立オリジンパークは 2021 年にオープンした日立グループの「始まりの地」で、貴重な展示物から、世界的な大企業へと成長した日立の歴史にふれることができます。臨海工場は、主に発電設備や原子力関連の巨大な構造物を製造しているインフラ拠点です。